

別表 2019年度 拠点間連携共同研究（重点推進研究） 一覧表

課題番号 カテゴリー名	代表者	研究内容
<p>2019-K-1-1 重点推進研究 (総括型)</p> <p>「巨大地震のリスク評価の不確実性に関するパラダイム構築の推進」</p>	<p>市村強 (東大地震研) 松島信一 (京大防災研)</p>	<p>重点推進研究（総括型）では、巨大地震発生時の災害リスク評価の不確実性を明確にすることを目標とします。そのためには、(1) まず各研究分野における知見・モデルの不確実性を定量化し、(2) それらの不確実性を考慮できるリスク評価の枠組みを構築した上で、(3) どの不確実性要因が全体のリスク評価の不確実性に寄与しているかを明らかにすることが必要です。この基本的な評価の枠組みを構築することを目標として、(1)～(3)について検討し、現時点でのリスク評価の不確実性を評価して公に共有するための研究を推進します。</p>
<p>2019-K-1-2-1 重点推進研究 (特定型) (その1)</p> <p>「ばらつきのある被害リスク評価をふまえた防災計画の検討」</p>	<p>牧紀男 (京大防災研)</p>	<p>災害リスク評価結果は想定シナリオ・手法により変化します。したがって、防災計画を策定する場合には、災害リスク評価にばらつきが存在することを踏まえる必要があります。そのためには、災害リスク評価のばらつきを理解することが重要であり、また計画の目的に応じて適切な災害リスク評価結果を選択することが重要になります。本研究では、シナリオ・手法の組み合わせにより変化する災害シナリオ評価結果を適切に理解することが可能なシステムの構築を行います。</p>
<p>2019-K-1-2-2 重点推進研究 (特定型) (その2)</p> <p>「定常的地震活動の震源および地震波速度構造の精度向上による地震波動場推定の高度化」</p>	<p>望月公廣 (東大地震研)</p>	<p>災害リスクを評価する上で、想定される震源からの地震波動場を精度よく把握することが重要です。研究対象領域である南海トラフでは、これまでに実施された構造調査等によって、地震波速度構造が明らかとなってきました。また、ケーブル式海底地震観測網等による海域地震観測により、定常的地震活動の震源精度も向上しました。これらの結果を統合して、より精度の高い地震波動場の推定に資するための研究を行います。</p>